

重症胆嚢炎に対して Baitout Surgery (BOS) の有用性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2022年11月12日～2023年12月31日

〔研究課題〕

重症胆嚢炎に対して Baitout Surgery (BOS) の有用性

〔研究目的〕

胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術は一般的な方法であるが、依然として重篤な合併症である総胆管損傷のリスクは高いままです。総胆管損傷を避けるために TG18 で回避手術(Baitout Surgery)が提案されたがそれをまとめた論文は少ないため Baitout Surgery (BOS) の有効性を明らかにすることが目的です。

〔研究意義〕

BOS 手術の有効性を証明することで総胆管損傷のリスクが減少することが期待されます

〔対象・研究方法〕

2010年4月から2012年12月までと2019年1月から2021年12月までに施行した腹腔鏡下胆嚢摘出術(LC)(≥手術時間3時間以上)72例とBOS症例88例、計160例に対し研究を行います。これらに対しては、診療録に記載された過去のデータをふりかえる研究(後ろ向き研究)が非常に有効な手法として盛んに行われています。本研究の解析で得られた知見を学会・論文を通じて医療レベル全体の向上を図るとともに、今後診療を受けて頂く症例に良質な医療を提供するための資料として活躍することで更なる治療成績の向上や有害事象の発生低下を目指します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部 肝胆膵・移植外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

研究対象者の個人情報とは無関係の番号を付けて個人を特定できないように加工することで、対象者の秘密保護に十分配慮します。患者情報は研究終了後、帝京大学臨床研究センターで10年間保管後に破棄します。

対象となる患者様、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 佐野 圭二

職名 帝京大学医学部外科学講座教授

研究分担者:氏名 渡邊 理

職名 帝京大学大学院医学研究科 大学院生

所属: 帝京大学医学部外科学講座

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL: 03-3964-1211(代表)〔内線 33714〕